



No.34

UT University Forests News

# 科学の森ニュース

June 9, 2006

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 冬の森林観察～春を待つ樹木たち～

秩父演習林

平成 18 年 3 月 11 日（土）、公開講座「冬の森林観察～春を待つ樹木たち～」が開催され、10 名の方々が参加されました。午前は大面積長期生態系プロットの見学と成分組成調査のために採取されているカエデ類の樹液を試飲、午後は冬芽の観察とスケッチをしました。参加者からは「樹液の試飲は一生の思い出！」「冬芽のスケッチなど、冬の森林を題材とした企画は新鮮だった」などの感想が寄せられ、好評のうちに終わることができました。体いっぱい春を感じることができたようです。



それぞれの自信作を手に記念撮影！

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF 形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

## 演習林の価値

### 新 演習林長 下村彰男

恥ずかしい話から始めねばなりません。先日、千葉演習林を訪れ、今更のように、その森林の素晴らしさに驚きました。多くの教職員の方々が、日々の管理を繰り返し、記録をとりながら、100年を超える時間をかけて創造してきた森林であり、現在の姿からは関わって来られた方々の丹精と誇りを読み取ることができます。こうした素晴らしさは千葉演習林に限ったものではなく、他の演習林でも同様ですが、これまで演習林が置かれていた状況から、その価値は必ずしも多くの人々に伝わっていないように思います。歴史の過程で蓄積してきた演習林の価値を多くの人々に分かり易く明確に伝え、有効に活用することができるよう尽力していきたいと考えています。



## 森林認証・地域材認証と森林管理・木材利用に関するワークショップ

### 愛知演習林

4月21日（金）に上記ワークショップが80名もの参加者を集めて開催されました。

森林認証あるいは地域材認証をテーマに講演2題、続いて座談会が行われ、木材生産地域の活性化、生産者から消費者までのつながり、地域ひいては日本・世界の森林環境問題との関わり、今後どのように認証制度を普及・発展させるのか等について熱い議論が展開されました。そして最後に参加者全員で「森林認証ワークショップ宣言」を採択して閉会となりました。宣

言文は愛知演習林ホームページからご覧ください。

また翌日の4月22日（土）には22名の方が愛知演習林赤津研究林を視察されました。



ワークショップの様子

## 春の一般公開～新緑の猪ノ川溪谷へ～

### 千葉演習林

4月22日（土）・23日（日）に『新緑の猪ノ川溪谷へ』と題し、春の一般公開を行いました。

今年は近年にない大雪の影響で、公開区間内でも数箇所では法面や路肩崩壊が起こったため、復旧作業を進めていましたが、無事一般公開日を迎えることができました。

天候に恵まれた22日の入林者数は352人、雨模様となった23日は164人、延べ516人が訪れました。所々にヤマザクラの咲く淡い緑の山や、溪谷沿いにあるモミジの鮮やかな新緑を存分に堪能していただけたのではないかと思います。また、この時期は野鳥の繁殖期でもあり、オオルリやキセキレイのさえずりに耳を傾ける方も多く見受けられました。



ボランティアガイドの説明を受け、柚ノ木歩道を登る入林者

# コースアップ 台湾大学実験林 研修報告 視察団長 澤田晴雄

2006年3月23～26日に台湾を訪れ、主に台湾大学実験林で実践されている森林の観光利用の実態を視察研修してきました。

私たちが訪れた台湾大学 Sitou 実験林は観光業に特に力を入れている場所で、例えば入園者だけでも年間約100万人もおり、入園料として1人約800円を徴収しています。入園者は別料金でホテル、コテージ、山小屋等の宿泊施設に宿泊でき、実験林の茶畑および製茶工場で作られたお茶を購入できます。この他、展望台、天文台、巨石、神木、スカイウォーク、竹類標本園、森林生態展示センター等を見学できます。これらの観光収益を合計すると年間数億円にも上るそうです。



台湾大学 Sitou 実験林の名所「神木」

このような観光事業に加えて研究・教育・森林管理など様々なことを、わずか150名足らずの職員で行っています。そのことを可能にしている大きな要素として、実験林の入場施設、宿泊施設、茶工場、売店、製材工場の運営に民間の会社が関わり、実験林における観光業の中核を支えている点が挙げられます。

東京大学演習林で、台湾大学の事業展開をそのまま当てはめることは難しいと思いますが、民間あるいは周辺市町村などと協力する姿勢は大変参考になりました。

<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/information/taiwan.htm> に詳しい報告が載っています。

## 本の紹介

### 森の健康診断

～100円グッズで始める市民と研究者の  
愉快な森林調査～

蔵治光一郎＋洲崎燈子＋丹羽健司[編]  
2,000円＋税 築地書館

森林と流域圏の再生をめざして、森林ボランティア・市民・研究者の協働で始まった、手づくりの人工林調査。全国にさきがけて行なわれた愛知県豊田市矢作（やはぎ）川流域での先進事例とその成果を詳細に報告・解説した人工林再生のためのガイドブック。

<http://www.tsukiji-shokan.co.jp/mokuroku/ISBN4-8067-1326-0.html>



## お知らせ

### 秩父演習林の土日の利用について

秩父演習林では、4月から11月の間、土日の利用者を受け付けます。日帰り・自炊宿泊の場合は前週の金曜日まで、賄い付宿泊の場合は前月の20日までに利用申込をして下さい。ただし、祝祭日等、利用できない日もあります。ホームページ等でご確認下さい。

## 演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください。

### 4月

- 8日 野鳥の家をつくろう単箱観察会(千葉)
- 15, 18日 自由見学(大血川管内)(秩父)
- 22日 しおじの会「新緑勉強会」(秩父)
- 22, 23日 春の一般公開(千葉)
- 23日 公開講座「植物の見分け方入門ー草本編ー」(秩父)
- 23日 春の息吹を愛知演習林でかんじてみませんか  
～春の見学会～(愛知)
- 29日 休日公開(田無)

### 5月

- 6日 休日公開(田無)
- 7日 埼大エコサロン「春のブナ林」観察会(秩父)
- 16, 27日 自由見学日(栃本管内)(秩父)
- 20日 埼玉県立自然の博物館との共催事業  
「奥秩父自然体験バスツアー」(秩父)
- 27日 大滝げんきプラザ・埼玉県立自然の博物館との  
共催事業「荒川源流トレッキング」(秩父)
- 28日 子ども樹木博士(田無)

### 6月

- 4日 市民公開セミナー(北海道)
- 11日 休日公開(田無)
- 18, 20日 自由見学日(大血川管内)(秩父)

### 7月

- 1日 公開講座「森林の獣」(秩父)
- 17日 大麓山ハイキング登山(北海道)
- 18日 自由見学日(栃本管内)(秩父)
- 19日 夏の森林教室(千葉)

### 8月

- 8～10日 高校生のための森と海のゼミナール(千葉)
- 15日 自由見学日(大血川管内)(秩父)

### 9月

- 30日 子ども自然塾(北海道)
- ～10月1日

## ブナ

ブナ科 ブナ属

学名： *Fagus crenata* Bl.

### 秩父演習林

北海道南部から九州までの冷温帯域に分布する代表的な樹種です。太平洋側のブナ林は白神山など日本海側のブナ林とは異なり、多様な樹種から構成されています。秩父演習林に設置した 6.75ha の天然林調査地内にはブナの大径木が数多くありますが、全体の本数ではイヌブナやツガが多い森林になっています。関東地方では稀少な存在になってしまったブナ林ですが、秩父演習林内の各所によく発達したブナ林が保存されています。ブナを対象とした研究として、同演ではシードトラップによる堅果の豊凶調査、産地別植栽試験が行われています。詳しくは「科学の森たんけんシリーズ」を参照下さい（お問い合わせ 秩父演習林広報委員会）。



ブナの雄花と雌花（2000年5月1日撮影）

## 名所名物案内

### 東京大学運動会山中寮

#### 富士演習林



この紙面の読者の中には、日本有数の観光地、リゾートである山中湖をよく知る人も多いのではないのでしょうか。その山中湖の湖畔一周道路の国道 138 号沿いに、東京大学運動会（いわゆる運動部）の山中寮があります。人格の陶冶（とうや）と国家思想の涵養を行う場の創造を目指し、東大生がみずから汗を流して、山中湖畔に初めての東大寮を建設したのは大正 14 年のことです。当時の学生の

労働はアルバイト・ヂンスト（独語：Arbeit 労働, Dienst 勤め・奉仕）と呼ばれ、これがわが国において学生アルバイトの語として一般に広まったとされています。その後、昭和 4 年に、現在も使用されている寮が建設されました（写真）。建設には、富士山麓の厳しい自然環境の中で育ったツガが用いられ、年輪の幅が狭い、目の詰まった良質の構造材が、長い年月を経た今でも堅牢に寮を支えています。また、神社のようにきついカーブの屋根、中央にトイレや風呂、水場など生活利便施設を配し、両翼に生活空間を備えたシンメトリーの木造建築物は、いまや歴史的建造物と言えるかもしれません。

### 科学の森ニュース (UT University Forests News)

#### 第 34 号 (No.34)

発行日 平成 18 年 6 月 9 日

発行人 下村彰男

編集人 山本博一

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp